

第3回 小学校外国語活動Ⅱ リフレクション



①今回の講義では、模擬授業に挑戦した。実習で実際に行った授業の反省を踏まえて行ったが、それでも思うようにうまくいかなかったことがたくさんあり、改めて授業づくりの難しさを感じた。今回は特に、押さえない表現を Chant やゲームなど活動の中で繰り返し練習して定着させることを意識して取り組んだ。また、実習の反省から、できるだけ英語を使いたいという思いをもって臨んでいたが、思うように英語が出なくて苦戦した。コミュニケーションを楽しむという点から考えると、日本語を交えながらもコミュニケーションを広げられるように子どもの発言を拾ったり、深めたりしながら進めていけたほうが良かったのではないかとも思った。

○難しかった点

- ・インタビューをするうえでの質問。I always wash the dishes.のように答えさせるには？
→今回は What kind of help do you do?にしたが、児童には難しいのではないかと思った。

○授業の反省点

- ・友達の手伝いを「探りたくなる」導入の工夫。活動に必然性を持たせる。
- ・映像や音声を流す前に、何を意識して視聴してほしいかを伝える。
- ・日本語を使ってでも、子どもの発言をもっと掘り下げて広げたほうが良い。
- ・子どものインタビュー中の反応で良かった点を紹介する。(Wow, Really?, Good など)
- ・小学生の場合は、もう少しスモールステップを設定したほうが良いのではないか。
- ・small talk の内容をカルタで活かしたらおもしろい

(I sometimes…だから、さっきの話からすると cook dinner か take out the garbage かな?)

- ・ジェスチャーの前に I always などを入れてからジェスチャーする。
- ・インタビューでは「話したい」気持ちを大事にする。

(話を広げるうえで日本語も必要であれば許容しても良いのではないか)

- ・リピートしてほしいときに、「ハイッ」や「せーの」など言いやすいような声掛けをする。

・発音練習などであまり言えていないときは、なぜできないのかを考えてもう1度練習するなど、児童の様子を見て対応する。

②授業全体を通して流暢な英語で話していたので、安心して授業を受けることが出来た。導入の挨拶から、一つひとつの活動の説明まで、丁寧に話している印象が強く、とてもわかりやすかった。今回は、頻度を表す単語と、お手伝いの内容を表す表現を学習した。カルタゲーム、ジェスチャーゲーム、お互いのインタビューを通して、今日学習した表現を何度も何度も使ったので、徐々に表現することに慣れていくように感じた。受けている側として一番感じたのは、やはり語彙の乏しさだった。活発な話し合いはできたが、それが大学生だから簡単にできただけであって、実際小学5年生の学級ではそれが可能なのか疑問に思う。そこで、日本語を混ぜながらでもよりたくさん表現する機会を与えることが重要ではないかと考えた。今日の活動でも、ちらほら日本語が出てきたが、英語で言える部分は少なからずあったので、それはそれでいいと思う。決まった英語で無理に話し合うよりも、自分が表現したいことを、間違ってもいいから英語と身振りなどで伝えてみる方がいいのではないかと考えている。今日はたくさん英語を使った活動があったので楽しかったし、小学生も同じように楽しめる内容だと思った。

③今回の模擬授業に参加して、多くのことを学んだ。まず、授業者の授業に対する姿勢が素晴らしかった。授業者自身が見学した小学校の授業で学んだことを活用し、さらに改善できるように授業を練り直していた。授業のねらいを達成するための中心発問の吟味や指導方法など、授業者のオリジナリティが見られた。授業を受けている側から見ても、一生懸命授業を考えていたことが伝わってきた。また、授業者が積極的に英語を話しており、子ども達にも英語で質問をするなど、子ども達が英語を話す機会を保障していた。

授業の内容に関しては、子どもが自然と英語を話したくなるような活動を取り入れていて、授業の流れも工夫されていた。自分も授業をする際に難しいだろうと思った点は、大学生が授業を受けているため、小学生に比べて、語彙が豊富で、教師の意図も伝わるが、実際に児童を相手にすると指示が伝わらなかつたり、児童が自分の言いたいことを伝える語彙を持っていないことがあるため、授業を作るレベルが難しいと感じた。授業をする上で、児童の実体を的確に把握するということが重要だと感じた。

④Mさんの模擬授業ははじめから終わりまで、学級担任の先生ではなく、外国語の授業をやる先生という感じでした。英語で話し、コミュニケーションを取っていて、普段の授業ではなく、外国語の授業なのだと切り替えて授業に参加できました。教育実習後だったので、授業もスムーズに進んでいました。内容面はゲームを2種類取り入れて、英単語を繰り返し使うようにする工夫がされていました。緊張もあったとは思いますが、常に笑顔で児童役の私たちの前で楽しく英語を使う姿を見せてくれたので授業の雰囲気もとてもよかったです

です。気になったところや改善点は、めあての「さぐってみよう」は児童の実態に即していないのではないかと思った。「友達が家でしている手伝いを聞いてみよう」とかがいいのかな?と思った。ジェスチャーゲームが後にあったからかもしれないが、手伝いの絵カードの英文を読むときに動作も付けると覚えやすいのになと感じた。動きと音セットで覚えると楽しく覚えることができそうだと思ったが、教師がその動作をしてしまうと、ジェスチャーゲームの時に児童の創意工夫のないゲームになったのかなとも思うので、少し気になった部分でした。

カルタゲームの時に、質問の練習を何度も行っていたが、ただ質問を行う、言わされているような受け身の活動になっていた。授業後のリフレクションで何名かから出ていた意見なのですが、「Always」「Never」などに着目させ、質問される人だったら「Never」の時はこの手伝いの絵カードだな、と予想しながらゲームをやると、考えながらゲームに参加するので楽しく学べると思った。

一回目の模擬授業のレベルが高くて、ももかさん以上の授業を行うことができるように、教材研究を深めていこうと思いました。

⑤今日の講義は、Mさんによる模擬授業「What time do you get up?」を行った。彼女の授業の進め方やボキャブラリー数などをみると、先日のよしの先生の授業をさらによりよくしようと工夫された授業であると感じた。また、教科書の内容を活かしながら、電子黒板を用いて、Jingle や Chants を現場で行われているようにスムーズに行っていたので参考にしたい。また、小学校で行われる外国語教育は、文法については感覚的に捉えるものとし、Activity を通して何度も何度もくり返し行うことで親しませるという特徴があることを再確認することができた。

●Good●

教師が使いこなせる英単語数がとても多く、基本的な指示は英語で行っていたので児童が必然的に英語にふれる、英語をアウトプットする環境を整えることができると考える。また、説明するときなど掲示物を指で追って話したり、ゆっくりと話したり小学生に向けた手立てがなされている様子がみえた。また、Activity も 2つ準備していてどちらも「お手伝い」を尋ねることをねらいとしたものであり、「カルタ」や「ジェスチャーゲーム」など子どもにとって親しみのあるゲームを材料にしている興味を惹きつけるものであった。

○Improve○

講義でも指摘したが、「めあての立て方」は児童の意欲・必然性から生まれるものをめざしたい。「お手伝い」は子どもの日常生活に身近なことなので子どもの生活経験から「これはどうやって英語で言うんだろう?」という気持ちを拾いあげてめあてを立てることでこの場面ではこの言い回しができるという実用性をもたせて授業をすることができ、授業を終えても子どもはフレーズを比較的長い間覚えておくことができるだろう。また、「お手伝いをしている人?」と聞いて手を挙げさせている場面があり、賢先生が「たまにだけど、、、」

といった時に授業者は「sometime だね」と言い返していたので、せっかく「頻度」に関するつぶやきが出たので、拾いあげて授業の中に組み込んでいくことで復習にもつながると考える。

以上の点を参考にして授業づくりに取りかかる。